

図1 3Dイメージ

## 1、はじめに

今、問題とされている、地球温暖化や環境汚染、森林破壊などについて考えてみた。

最近では、地球温暖化を少しでも和らげるために、『エコ』という言葉をよく聞くようになった。

人は建物を造り出し、緑を人工的に作り、それを『エコ』呼ぶ。しかし、それが本当に『エコ』と呼べるのか、という疑問がうまれた。ただ、それは人が緑を手なずけているに過ぎないのではないだろうか。

人が手を加えなければその緑は育たないのではないだろうか。

そこで私は自然な『エコ』から人がそれに入ってくる。逆の考え方をしてみた。



図2 横浜周辺写真

## 2、対象

対象は横浜市みなとみらい21、新港地区。

ここは、赤レンガ倉庫やコスモワールド、ワールドポーターズなど、観光スポットがある場所、その一角にある封鎖されていた駐車場を敷地とした。敷地周辺には海も近く新港パークという公園もある場所で、中央地区から新港地区に行くための導線があり、ここに何かがあれば、そこから人が活気づくのではないだろうか。



図3 広域図

## 3-1 コンセプト

今の『エコ』の考えかたではなく、自分の『エコ』のありかたを考え、複合施設を提案します。

今までの考えでは人工物に自然を取り込み、その自然を人が管理し、手なずける考えだと私は思います。

それでは、人が手を加えなければ、自然は枯れてしまうのではないかと考えます。

そこで私は今までの考えとは違い、もともとある

自然から人工物が入り込んでくる。という考え方をしてみます。

そこから人は自然と共存できるのかという提案です。

### 3-2 設計方法

まずは、ここに緑があったとします。そしてそこに人工的な直線の壁柱を自然との関わりを持たせていきます。なぜ、直線の壁柱にしたのは人工的なイメージがあったので直線の壁柱で人工的な表現をしてみました。

しかし、それだけでは関係性がまだ足りないように感じました。

そこで、ボイドを使うことによって自然と人工物の関係性をより高めてみました。

ボイドを使うことによって、光を建物や自然のなかに流し込み、人を建物と自然に関わらせることができ、共存性を体感出来るのではないのでしょうか。

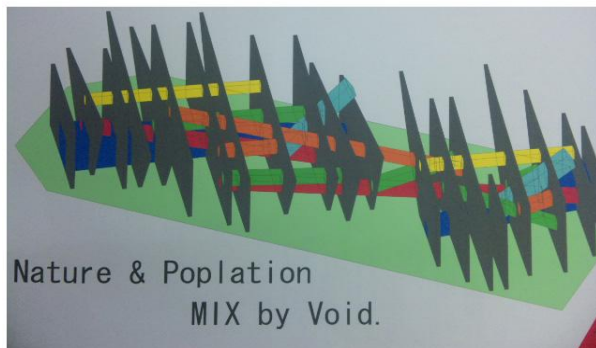


図4 コンセプト図



図5 外観パース

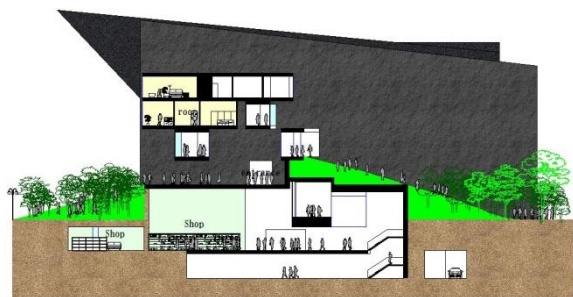
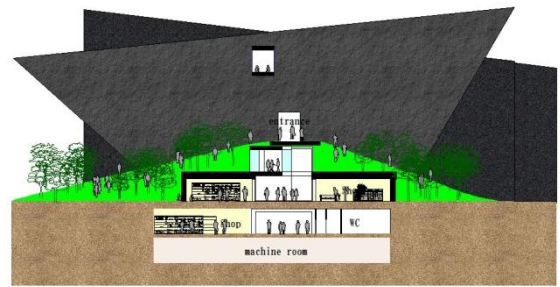


図6 断面図

### 3-3 用途

用途は地下1階にはブティックがあり、洞窟のような狭く暗い感じをイメージして設計しました。また、暗い場所には自然の木に紛れて、人工的な木をイメージしたトップライトを設けそこから光が自然に入り込んできます。

1, 2, 3階にはブティック、カフェ、レストラン、住宅があり、自然の起伏を使い、緑を体感しながら建物の中に入れるような形になっています。そして、4, 5, 6階にはオフィス、住宅があり人工物そのものをイメージし設計しました。

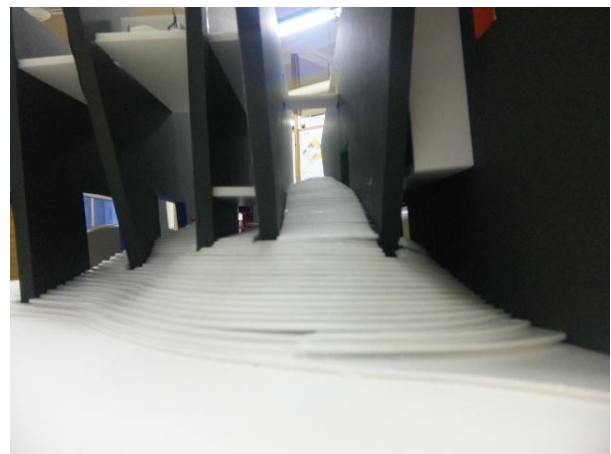


図6 模型写真